

○村上智行委員長 続いて、日本維新の会の質疑を行います。

なお、質疑時間は、答弁を含めて十分です。小野寺健委員。

○小野寺健委員 先日監査委員の指摘により判明しました、みやぎ産業交流センター施設修繕事業における予算の二重計上について、なぜ二重計上が発生したのか、その原因を当局はどのように分析しているのか、担当部署や関係者の責任の所在についてはどのように考えているのか、まず伺います。

○中谷明博経済商工観光部長 本事案は同一事業におきまして、令和五年度から令和六年度への繰越予算と令和六年度の当初予算が二重に計上されたもので、担当職員の知識の不足や組織的な確認が不十分であったことから発生した予算に関する問題だと認識しております。みやぎ産業交流センターでは、施設の老朽化の影響により、近年工事件数が十数本で推移しておりまして、一層注意深い管理が必要だったものの、複数人での確認の徹底が不十分だったために今回の事案を招いたと考えております。内部統制機能を最大限発揮するためには、担当職員個人の知識や注意力だけに依存せず、いかに発生を抑えるかという組織としての対応が重要であると考えております。

○小野寺健委員 同様の事態を防ぐために、再発防止策が重要だと思います。予算編成プロセスの見直し、チェック体制の強化、職員教育の徹底など必要だと思いますが、改めて所見を伺います。

○中谷明博経済商工観光部長 本事案は先ほど申し上げたとおり組織的な確認が不十分であったことなどに起因しておりますことから、再発防止策としまして改めて各業務の進捗管理表を作成して管理監督職員が定期的に確認することとしたほか、新年度予算の編成過程においても、現年度事業の進捗管理表との照合により予算の重複を防止することとしております。また、職員の教育につきましては、全庁的に行われております出納研修等への参加に加え、今年度予定しております予算事務をテーマとした部内研修を通じまして適切な予算執行につなげてまいりたいと考えております。

○小野寺健委員 令和六年度の予算においては、今回の事業は債務負担行為が設定されています。相違点としては、令和五年度には設定されていません。そこで本県における債務負担行為の基本的な考え方と、特に重視している目的、単年度予算主義の原則との関係において、債務負担行為がどのような役割を果たすとお考えなのか改めて伺います。

○小野寺邦貢総務部長 債務負担行為はあらかじめ予算の内容の一つとしてその行為をすることができ、期間及び限度額を定め、地方公共団体が将来にわたる債務を負担する行為でありまして、単年度予算主義の原則を厳格に当てはめると、予算の効率的な執行に支障を来す場合などに対応するための制度でございます。我が県におきましては、これまで複数年にわたる工事請負契約や県有施設の指定管理者への委託など、特に予算の効率的な執行を図るために設定してきたところでございますが、債務負担行為は将来の財政負担を伴うものでございますので、要件が合致しているか、過度な限度額でないかといったところを精査し、設定しているところでございます。

○小野寺健委員 令和六年度に事業が繰越しされているのにもかかわらず、令和六年度事業に改めて債務負担行為を設定した上で予算として出てきたと。予算は、議会の議決事項ですので、議会のチェック機能が及ばなかったことにじくじたる思いです。視点を変えますが、ところで御当局は二重計上をいつ把握したのでしょうか。

○中谷明博経済商工観光部長 本事案につきまして当該担当職員は、令和五年度予算と重複していることを認識しつつ、令和六年度の当初予算にも計上したというものでございます。組織的に把握いたしましたのは、令和五年度に計上しましてそれを令和六年度に繰り越しました予算を更に令和七年度に繰り越す起案が回議された際に、その理由を確認する過程で今年の二月に判明したものでございます。

○小野寺健委員 この問題は内部統制に当たるところなんですけれども、なぜ事業を執行していて気づかないのか、国際政策課、財政課などを簡単にスルーしたのが不思議でなりません。また、これは報告が遅いと思うのですけれども、議決した県議会や常任委員会にはいつ報告しましたか。

○中谷明博経済商工観光部長 現時点で県議会、常任委員会に対しまして、これまで報告は行っていないところでございます。

○小野寺健委員 これは大変な問題だと思っております、令和五年度予算に一億百七十九千円の予算を計上し議会で議決されていながら、年度末を超えて繰り越しされているのにもかかわらず、令和六年度予算に一億五百九十四千円を再び予算計上、債務負担行為されていて、再び議会で議決されているのです。事は御当局だけでは済まずに、議会の対応にも関わってくるものと私は思うのです。私は、問題発覚時または事実関係が

明らかになった時点、二重計上が発覚した時点で速やかに議会に報告することが必要だと思うのですが、責任ある答弁を求めます。

○中谷明博経済商工観光部長 本事案につきましては、令和五年度内に判明していれば減額補正が可能でありましたが、さきに答弁申し上げましたとおり、今年の二月まで組織的に認識ができず、そうした対応がとれなかったものでございます。本件につきましては、予算事務上のミスということでございます。県民生活に多大な影響を与えらるというものではないと考えまして、監査委員事務局など庁内関係所属への報告にとどめたものでございます。

○小野寺健委員 今、九月ですよ。二月に判明して九月まで何も報告がないというのはおかしいと思うのですが、責任ある答弁を求めます。

○中谷明博経済商工観光部長 本事案につきましては、発覚した時点で議会に対して減額補正を行う等のタイミングを既に逸していたということ、また、県民生活に多大な影響を与えるものではないというふうに考えまして、庁内での報告にとどめたものでございますけれども、今後このような事案が発生した際には、今回の御指摘も踏まえまして、しっかりと対応を検討してまいりたいと考えております。

○小野寺健委員 もう一度聞きます。これはなぜ、二月のことが九月までまだ報告されてないということなのか。

○中谷明博経済商工観光部長 繰り返しの答弁で大変恐縮でございますけれども、本事案につきましては、もし令和五年度内に判明しておりましたら、減額補正等の対応が可能であったわけでございますけれども、そうした時期を逸したタイミングにて把握したということでございます。また、予算事務上のミスでありまして、県民生活に多大な影響を与えるものではないと考えまして、庁内の関係機関への報告にとどめたものでございます。

○小野寺健委員 いち早くミスに気づき対応すること、部長がおっしゃったように減額補正していれば、他の県の必要な事業で予算がついていないのに予算がついたのかもしれない。県民から予算をお預かりしている意識が欠けているのではないかなと思います。このことがこのスピード感に現れているのではないのでしょうか。みやぎ産業交流センターを直接所管している経済商工観光部、また、予算を編成している財政を所管している

総務部には猛省を求めます。この件について最後に村井知事の所見を求めて終わります。

○村井嘉浩知事 あってはならないミスだというふうに思いまして、私も正直、監査委員から報告書を頂くまでこのことについては掌握していなかったということで、私の管理監督責任というのもあるだろうというふうに思っているところでもあります。職員に確認したら、実害はなかったということ、あと、議会に報告するというものの中に、必ずやらなければならないというものにはなつてなかったというような、いろいろ言い訳はあるのですけれども、いずれにしても、そういったミスがあつたということは真摯に反省いたしました、今後こういうことがあつたときには極力議会のほうにしっかりと報告・説明し、謝罪するというところに努めていかなければならないというふうに思っております。

○小野寺健委員 少なくとも議会で議決していることに関しては、必ず議会で情報共有をしていかなければ対策・対応が立てられないと思いますので、その点は必ず忘れないでやっていただきたいと思います。以上です。